

令和7年10月23日木曜日
13:00~14:00
山科事務所
定期巡回のクローバー

令和7年度2回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議

出席者：末國氏(観修学区社会福祉協議会：副会長)長谷川氏(観修学区老人福祉委員)鶴飼氏(訪問看護ステーション仁：管理責任者)横田氏(勧修地域包括支援センター)山口氏(すばる居宅介護支援事業所)岩原(クローバー24居宅介護支援事業所所長)星野(クローバー代表)、立脇(クローバー管理者)、嶋田(クローバー事務長)(書記)

(1) クローバー挨拶、構成員紹介(別紙：構成員名簿あり)

代表星野より挨拶

訪問介護事業所の倒産が相次ぎ、訪問介護事業所ゼロの自治体が32都道府県107町村存在している。784件の倒産件数中6割以上が訪問介護事業所であった。(2024年)

介護の魅力を伝えながら地域貢献活動を続けていきたいと考えている。

(2) R7年4月中旬からR7年10月初旬までの事業所の動きについて

○醍醐事業所・山科サテライト合計

・ご利用者の推移：R7年4月中旬 50名(内入院5名 夜間訪問型9名)
平均要介護度 3.18

R7年10月初旬 49名(内入院2名 夜間訪問型7名)
平均要介護度 3.40
内山科区 33名
伏見区醍醐 16名

相談内容として山科は伏見区や東山区から地理的に訪問しにくい、事業所が少ないという話や、以前に定期巡回をご利用いただいたことで「家に帰ることができた」「看取ることができた」「安心して退院後のサポートを受けることができ、その後滞在型のHHへ変更することができた」という事があり新規でご相談をいただいている。

人数や事業所数が増えるとなかなか連携を取りにくくなることもあるかと思いますが、弊社ではラインワークスやチャットワークの利用を始めていますが、包括支援センターや居宅、訪問看護間で何か工夫をされたりされていますか？地域の方からご意見をもらうような掲示板などあるんでしょうか？

（横田様）紙ベースでの広報の配布が地域との情報交流の主な手段。ラインワークスを利用して各事業所とのコミュニケーションを取っている。地域ケア活動で社協などの担当とやり取りをしている。学区によっては役員さんがLINEで繋がっているのでそこに入らせてもらったりと状況に合わせて対応させてもらっている。

（鵜飼様）包括さんとはラインワークス、居宅さんとはラインでやり取りをしている。

（山口様）家族とはラインでのやり取りが増えている。やり取りの履歴が残るので便利。

（長谷川様）包括さんとはほとんど電話でやり取りしててLINEなどはしていない。

- ・この間で地域の方含め、居宅や医療の方から共有して起きたい何か情報有りますか？
- ・民生委員や老人福祉委員、社協と連携することはありましたか？

（3）周知活動について（別紙有り）

●ほぼ毎月醍醐と山科を各1日ずつ居宅や病院の地域連携室、包括、訪看などを訪問し周知活動を行った。

定期巡回の事業所は認可を受けていますが地域提供をしている事業所は大変少なく地域介護を支える上では地域提供を行う定期巡回の事業所が増えることは弊社としては喜ばしいことだと感じている。

実際のところ山科地区での定期巡回サービスの地域提供は増えているんでしょうか？

横田様、山口様、鵜飼様、岩原様お話しいただければ…

→地域提供が増えている印象はないが、アリシエイトはよく営業には回ってこられている。サービス提供事例を持ってこられている。どういう支援の観点でされているのか、一度利用してみないとと思っている。

弊社も6年やっている事で入り方が固まっている。新たな発想を新しい事業所から得たいと考えている。

●山科地区…西野山団地たこ焼きミーティングにてワークショップ

なかなか山科地区での地域活動が本格的に動くことができてはいないが、今後は西野山団地でサービス協会と協力してワークショップなどを定期的に開催して、地域に根付いた事業所を目指せればいいかと考える。また西野山団地でワークショップをすることにより団地の実情を知り、なかなか外に出てくることができない高齢の方などの情報を得るチャンスしたい。

地域活動において求められていることはどういったことか？どうすれば地域で、ご自宅で困っておられたり、孤独でおられたり、関わりを持ちたいが持てない方達を見つけることが出来るのか？

ずっとその地域で暮らしているのではなく、様々な事情で移り住んでこられた方々がより関係性が希薄でおられると考える。支援が必要な状態になるまでに関わられるようになるにはどうしていけば良いか？

- ・皆様に意見をお願いします。

(岩原) 永遠の課題ではある。出てきたくない、一人で居たいと思う人はそれはそれで幸せではないか、無理やり連れだす必要はないのではないか、と思ったりする。

(鵜飼氏) 何かしらで病院に通っておられる方は多い。そこの看護師がうまいこと繋がつていられると良いなと思う。

元気な時には必要なくても、誰かが関わり続けている事で困った時、頼りたい時に頼れるルートを用意できている事が大事ではないか。

(長谷川氏) 困った時には「高齢サポート」に相談しいや、と言うようにしている。

末國様より

- ・来年は山科50周年
- ・山科駅に「はるか」が停まるようになり、駅周辺がずいぶん開発される予定。
- ・国道一号線が渋滞解消の為に整備される予定。
- ・勧修社協も人手不足。最近は橋大学の生徒さんがよく手伝ってくれている。横の繋がりを持っていこうと思っている。

次回 R8年度第1回 介護・医療連携推進会議：令和8年4月に予定しております。ご協力を願いいたします。